

あなたがたの命はキリストと共に

使徒言行録 10 : 34 - 43

コロサイの信徒への手紙 3 : 1 - 4



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年3月31日

復活日

聖光教会にて

先ほど使徒書でこう聞きました。

「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」

コロサイの信徒への手紙 3:3

「あなたがたの命」＝わたしたちの命に、関心が向けられています。わたしたちの命が暖かく見守られています。そしてそのわたしたちの命は「キリストと共に」ある。死んだとしても、死ぬほど弱ったとしても、滅びていない。キリストと共にわたしたちの命は、「神の内に隠されている」。滅ぶはずのわたしたちの命は、神の内に隠され守られている。詳しい意味はわからなくても、とてもうれしいことです。このことについては後からまた触れることにしましょう。

今日は使徒言行録のお話です。その背景はあらましこんなふうです。

ペテロが地中海沿岸のヤッファという町に滞在していたとき、そこに北の方カイサリアの町に駐屯するローマ軍の百人隊長コルネリウスから使いが来ました。せびともイエスについてのお話を聞きたいので、カイサリアまで来てほしいとの強い要請でした。そこでペテロは数人の仲間とともに出かけました。途中1泊してカイサリアに着きました。コルネリウスは、親戚や親しい友人たちを集めて待っていました。ペテロが来ると、コルネリウスは迎えに出て、ひれ伏してペテロを拝みました。よほど

の思いでペテロを待っていたことが分かります。ペテロは彼を起こして「立ってください。わたしもただの人間です」と言いました。

コルネリウスはこう言いました。

「今わたしたちは皆、主があなたにお命じになったことを残らず聞こうとして、神の前にいるのです。」使徒言行録 10:33

神の前に出て、福音を聞こうとしている。このようなコルネリウスたちを前に、ペテロも真剣にならざるを得ません。語るべきことをすべてしっかりと語らねば、と強く感じます。

ペテロが語った言葉はこうでした。

「イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。」 10:38-40

ペテロの話の中心は、イエスの生涯の働き、そして死と復活です。イエスの生涯の働きと十字架の死は、言わば地上の出来事なので、聞く側も受け入れやすかったかもしれません。けれどもイエスの復活は異常な話です。

「神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してく

ださいました。」

神がイエスを復活させた。復活されたイエスは生きていて、今わたしたちに働きかけておられる。このことを真剣に、真心をもってペテロは語りました。けれども、このことが聞く側にはほんとうに伝わるのは、そこに、その語り聞く中に、復活のイエスご自身が立って生きて働いてくださるときだけです。復活が分かる、伝わるというのは、人間の知識、力の範囲を超えることです。それですから祈らなくてはなりません。祈りつつ語り、祈りつつ聞くのです。

このペテロの語った復活の福音は、聞いているコルネリウスたちに伝わったでしょうか。

今日読まれたのは 43 節まででしたが、その続きの 44 節にはこう書かれています。

「ペテロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降^{くだ}った。」 10:44

伝わったのです。しかも驚くべき仕方で伝わった。

「御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。」

感動が起こりました。語る方にも聞く方にも、復活の主イエスがここにおられることがはっきりとわかった。復活の主の愛と力が自分たちの心と体に浸透してきます。イエスが生きておられる喜びが皆を包んでいます。

実はペテロたちとコルネリウスたちの間には壁がありました。ペテロたちはユダヤ人です。長いイスラエルの信仰と生活の規律を継承してきた神の民。ところがコルネリウスたちは異邦人、外国人で、しかもローマの軍人とその家族、関係者です。神の民ではなく、よそ者とされてきた人たちです。ペテロが招かれたときに、行くべきかどうかためらいがあったのです。

しかしこの外国人であるコルネリウスたちが今、はっきりとイエス・キリストの福音を感動をもって受け入れた。復活のイエスがこの人々に働かれている。もはや何の妨げがあるでしょうか。ペテロは決意してコルネリウスたちに洗礼を授けました。どんなにうれしかったことでしょうか。

ペテロはこのようにコルネリウスたちにイエスの十字架と復活を語り、それが実を結ぶことになったのですが、ペテロ自身が復活のイエスに出会っていなければ、こうしたことは起こらなかったでしょう。

今日のマルコ福音書の話の思い出しましょう。

イエスが十字架につけられて三日目の日曜日の朝早く、女の人たちがイエスの墓に行きました。ところがそこにはご遺体はなく、白い長い衣を着た若者が座っていてこう言いました。

「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここには

おられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」マルコ 16:6-7

なぜこの若者（天使？）は「弟子たちとペトロに」と、特にペトロの名を挙げたのでしょうか。それは、イエスがペテロのことを特に心配しておられたからではないでしょうか。

ペテロは、他の弟子たちはどうであれ、自分だけは死んでもイエスを裏切らないと決意し、そう言葉にしていました。しかしイエスが捕らえられたとき、大祭司の屋敷の庭で人から問い詰められて、3度もイエスを知らないと言って主を裏切りました。彼はそのことをひどく悔いて、自分を責め続けていたでしょう。弟子たちの中でもっとも心の破れた自分のことをイエスは心配してくださり、必ず会えると約束してくださった。やがてほんとうに復活のイエスと再会したペテロは、自分も新しい人に生まれ変わったのです。

今日の使徒書・コロサイの信徒への手紙の1節をペテロは知らなかったでしょう。けれども知ったとしたら、これは自分のことが言われていると思ったに違いありません。

「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリ

ストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」コロサイ 3:3-4

イエスを知らないと言ってイエスを裏切った自分、そのことで自分を責め続けた自分は、あのとき死んでいた。けれども十字架のイエスはその自分を捕まえておられた。そのとき自分の命はキリストと共に神の内に隠され守られていた。イエスが復活して人々に現れ、自分に出会ってくださったとき、自分も復活して強められ、生きて働けるようになった。

これがあって、コルネリオとの出会いがあったのです。

ペテロだけのことではありません。わたしたちもまたキリストと共に死に、キリストと共に神の内に隠され守られている。そしてキリストの復活によってわたしたちも新しい命と力を受けて現れ出る。そこからキリストと共に歩み働くのです。

お祈りします。

主イエスさま、復活の主であるあなたに出会わせてください。あなたの復活の力と愛がわたしたちを生かしてくださいますように。あなたの中にわたしたちの命と希望があるのですから。

アーメン